

環太平洋研究センター構想から国際開発研究科へ

今年は、大学院国際開発研究科の創設30周年にあたります。同研究科は、名大で初めて設置された、学部を持たない独立研究科です。また、日本における国際開発分野を専門とする大学院の先駆けでもありました。

創設に至る道のりは長く、1980年代に入って検討が本格化した文科系研究所設置構想から発展したものでした。当初は、名大が多くの留学生を受け入れていたことや、発展途上国の開発支援を目的とする唯一の国連機関である国際連合地域開発センターが名古屋市に置かれていることなどを踏まえて、「環太平洋研究センター」構想が打ち出されました。これが87(昭和62)年度から概算要求に盛り込まれますが、なかなか認められませんでした。

1989(平成元)年度に入ると、文・教育・法・経済学部、総合言語センター、教養部は合同の専門委員会を設置し、構想の練り直しを図りました。同委員会は、独立研究科「環太平洋総合開発研究科」の設置、経済学部が独自に

設置を目指していた独立専攻「経済開発専攻」を新研究科の第1専攻とすること、文科系部局は定員の振替や協力講座などで新研究科に協力すること、等を答申しました。この構想が、全学的な検討や政府との折衝等を経て、「国際開発研究科」として実現しました。

1991年4月に創設された国際開発研究科は、国際開発専攻のみでスタートしましたが、92年4月に国際協力専攻が、93年4月に国際コミュニケーション専攻が新設され、2016年度まで続く3専攻体制が完成しました(現在は国際開発協力専攻の1専攻体制に改組)。

各専攻は、専任教員からなる基幹講座と文科系部局の協力教員からなる協力講座から構成されており、協力講座の人事は関係部局が行いました。そのほか、国際開発研究科長を議長とする国際開発研究科関係部局連絡会議が置かれるなど、同研究科と文科系部局はその後にも密接な関係を保ちました。



- 1 国際開発研究科創設の経緯を記録した公文書ファイル(東海国立大学機構大学文書資料室所蔵)。
- 2 1991年7月3日に名古屋国際ホテルで、大学関係者、地元の官財界の代表など約200名が出席して挙行された国際開発研究科創設記念式典。式典後、同ホテルで祝賀会が行われた。
- 3 国際開発研究科の授業風景(1991年)。設置当初は専用の施設を持たず、講義室や研究室が関係部局に分散していた。
- 4 1994年12月に第1期工事が完了した国際開発研究科棟。その後、98年1月に完了した第2期工事により現在の姿になった。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



With コロナでのキャンパスライフ応援事業(基金)ご支援のお願い

名古屋大学では「新たな生活様式」を取り入れ、安心・安全に充実した学生生活を送れるよう、「With コロナでのキャンパスライフ応援プラン」を実施します。学修環境や課外活動への対策に加え、一人ひとりの悩みに寄り添う学生支援などを進めてまいります。コロナ禍においても挑戦する姿勢を育み続けるため、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお問い合わせください。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

